

## 国立台湾科技大学内に 徳島大学教育研究センターを設置

2014(平成26)年6月

2014(平成26)年6月27日、香川学長をはじめとする本学訪問団が国立台湾科技大学(台北市)を訪問し、大学間交流協定を締結するとともに、徳島大学教育研究センターを設置した。

2011(平成23)年に本学工学部と国立台湾科技大学工学部および電気情報学部の部局間交流から始まった交流は、同学国際センターにおいて行われた廖慶榮(Liao Ching-Jong)学長と本学香川学長による調印を以て、大学間交流協定に格上げされ、引き続き工学部に移動し、香川学長と廖学長が看板の除幕式を行い、徳島大学教育研究センターを設置した。調印式及び除幕式には細井国際担当副学長、河村保彦工学部長をはじめとする多くの関係者も出席した。

本センターは、これまでの部局間の交流実績に基づき、本学のアジア地域におけるプレゼンスの向上を図り、共同研究、学生交流を更に推進してグローバルに活躍できる工学系人材の養成を実施することを目的として設置された。センター長には機械工学科の出口祥啓教授が、副センター長には村上理一国立台湾科技大学教授(徳島大学特命教授)が就任した。本センターでは徳島大学学生の海外インターンシップ派遣拡大、ダブルディグリープログラムへの受け入れ拡大、サマープログラムによる相互交流拡大を柱に活動をはじめた。また、この協定締結を機に両大学間の共同研究5プロジェクトが開始されたが、2019(令

和元)年度まで毎年5件の共同研究プロジェクトを採択し本学の研究のグローバル化を牽引している。

新しい試みとして、2015(平成27)年3月には国立台湾科技大学から邱士軒(Chiu Shih-Hsuan)教授と游進陽(Yu Chin-Yang)助教を招へいた。両先生は教育研究ユニットとして本学と国立台湾科技大学との共同研究プロジェクトの推進のみならず、本学大学院先端技術科学教育部の日本人学生が国立台湾科技大学への海外留学を考えるきっかけを作り、その結果2014(平成26)年度から2018(平成30)年度の5年間にダブルディグリープログラムを利用して6名の日本人学生に国立台湾科技大学での修士号が授与された。更に日本学生支援機構(JASSO)の海外派遣支援事業および徳島大学独自の奨学金であるアスパイア奨学金を活用して、台湾における海外インターンシップは2017(平成29)年夏季には16名を派遣するまでに成長し、国立台湾科技大学でのサマープログラムには、毎年20名前後の学生が参加するまでに成長した。

このように一定の成果を残した国立台湾科技大学に設置された徳島大学教育研究センターだが、本学と国立台湾科技大学との学生交流および研究交流は十分根づいたとして2019(令和元)年6月の協定更新時を以て閉所することになった。

